

(仮称)豊岡町複合施設再編整備事業 基本構想(素案)

～豊岡小学校建替えを魅力あるまちづくりにつなげる～

目次

1.	はじめに	1
1.1	目的と背景.....	1
1.1.1	事業の目的.....	1
1.1.2	事業の背景(公共施設の再編整備の必要性).....	2
1.2	基本構想と関連計画の位置付け.....	3
1.3	複合化の対象施設・設置を計画する敷地.....	4
1.3.1	複合化対象施設	5
1.3.2	複合施設の設置を計画する敷地の概要	5
2.	目指す姿	6
2.1	複合施設のコンセプト(目指す姿).....	6
2.1.1	コンセプト策定までの経緯.....	7
2.2	複合施設の運営、整備の方針.....	8
2.2.1	複合施設の基本的な方針	8
2.2.2	効率的な施設整備・管理等	8
2.3	各施設の基本的な機能・目的等	9
2.4	融合・連携による機能.....	10
3.	施設計画.....	12
3.1	複合施設整備の基本的な考え方.....	12
3.2	整備機能と必要諸室	14
3.2.1	小学校.....	14
3.2.2	放課後キッズクラブ	15
3.2.3	日本語教室.....	16
3.2.4	保育所.....	17
3.2.5	図書館.....	18
3.2.6	つるみ区民活動センター	20
3.2.7	民間機能.....	22
3.2.8	複合施設の規模	23
3.2.9	複合施設の配置の検討	23
3.3	整備スケジュール	25
4.	事業手法.....	26
4.1	検討の視点	26

4.2 主な事業手法	27
(参考)現状と課題.....	28

1. はじめに

1.1 目的と背景

1.1.1 事業の目的

豊岡小学校は、大正時代に現在の場所に設置された、地域に根差した愛着のある施設です。
また、豊岡小学校が立地する場所は、駅や商店街に近接する利便性の高い場所です。

現在の豊岡小学校の学校施設は、老朽化が進んでいるため、建替えにより、教育環境の向上を図ることとしています。

この機会を捉え、豊岡小学校の周辺の鶴見図書館、鶴見保育園、つるみ区民活動センターと併せて再編整備し、子どもから高齢者まで、安心して過ごすことができる場、生涯学習や地域活動を行うことができる魅力的な場、地域の方々の多様な思いが込められた新しいコミュニティの場とすることなどを目指します。

また、公共施設の複合化に加え、民間機能等も併せて導入することや民間事業者のアイデアやノウハウを活用することで、より良い市民サービスの提供や将来にわたり地域の活力向上や賑わいの形成にも効果が期待できます。

各公共施設の機能を高め、効率的な整備運営を進めつつ、小学校単独の建替えでは成しえない相乗効果や新たな価値を生み出し、地域の活性化や魅力向上を図ります。

1.1.2 事業の背景(公共施設の再編整備の必要性)

人口急増期に整備された市内の公共施設の多くは老朽化が進行し、更新(大規模改修や建替え等)の時期を迎えています。これらの公共施設の維持・保全や更新には、今後、多額のコストが必要となります。また、少子化による人口減少が進む中で、現在の公共施設の量や機能の見直しが必要となっています。

そこで横浜市では、令和4年度に策定した「横浜市の持続的な発展に向けた財政ビジョン」や「横浜市公共施設等総合管理計画」の中で、今後も公共施設が提供する機能やサービスを維持向上するため、公民連携の視点も入れつつ、公共施設の規模・量、質、保全更新コストの適正化を図ることとしています。

また、公共施設の更新の機会を捉え、複数の公共施設の再編整備の検討を行い、将来にわたり必要な市民サービスの持続的な提供と地域コミュニティの活性化を図ることとしています。

(仮称)豊岡町複合施設再編整備事業は、これらの具体化を目指す本市初の大規模な再編整備のプロジェクトです。

個々に施設を建替えることで想定される様々なコスト等を再編整備により効率化することで、新たな機能やサービス、地域の魅力づくりに還元し、将来にわたり公共サービスの維持向上を可能とする本市の先進事例となるよう検討していきます。

検討経緯

豊岡小学校の学校施設は老朽化が進んでおり、教室数の確保など教育環境の改善も必要だったことから、令和3年度に建替えの検討に着手しました。

「横浜市公共施設管理基本方針」(令和3年度当時)において、公共施設の更新・建替えの際には、「多目的化や複合化等の再編整備の検討を行い施設の集約化や規模の効率化などを進める」としていたこと、「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」(令和3年度当時)において、学校施設の建替えの際には、「学校統合や他の公共施設等との複合化等も検討する」としていたことから、豊岡小学校周辺の公共施設の複合化を視野に、検討を進めることとしました。

1.2 基本構想と関連計画の位置付け

「(仮称)豊岡町複合施設再編整備事業基本構想」は、「横浜市公共施設等総合管理計画」を踏まえて、作成しています。また、「横浜市中期計画 2022～2025」や「都市計画マスタープラン 鶴見区プラン」等に整合させた上で、とりまとめています。



【参考】「横浜市中期計画 2022～2025」基本戦略・戦略の構造

1.3 複合化の対象施設・設置を計画する敷地

豊岡小学校周辺には、次の図のように、複数の公共施設が立地しています。このうち、築年数が比較的長く老朽化等による建替えが想定され、小学校と親和性があり、複合化により互いの機能の連携や相乗効果の発揮が期待できる施設として、鶴見図書館、鶴見保育園、つるみ区民活動センター及び小学校内で行っている日本語教室豊岡教室(日本語指導が必要な、市内の中学生及び豊岡小学校の児童が通級)、放課後キッズクラブを、複合化の対象施設としています。

なお、現在、豊岡小学校の東側校舎を使用して市内在住又は市立小・中学校に在籍する不登校児童生徒の支援を行っているハートフルスペース鶴見とハートフルルーム豊岡については、市内のハートフルスペース、ハートフルルームの配置状況等を踏まえ、移転等を検討していきます。



【位置図】豊岡小学校周辺の主な公共施設及び複合化対象施設

1.3.1 複合化対象施設

複合化の対象となる施設等は次のとおりです。

- 豊岡小学校
- 放課後キッズクラブ
- 日本語教室豊岡教室
- 鶴見保育園
- 鶴見図書館
- つるみ区民活動センター
- 民間機能(2.1に示した複合施設のコンセプトに合うもの)

1.3.2 複合施設の設置を計画する敷地の概要

(仮称)豊岡町複合施設は、現在の豊岡小学校西側敷地に計画します。

所在地・アクセス	横浜市鶴見区豊岡町 27 番地 1 JR京浜東北線・鶴見線鶴見駅下車 西口より徒歩 7 分 京急線京急鶴見駅下車 西口より徒歩 9 分
土地面積	約 9,720 m ²
用途地域等	商業地域(建ぺい率 80%、容積率 400%)
高度地区	第7種高度地区
防火・準防火地域	防火地域
駐車場条例の附置義務区域	駐車場整備地区又は商業地域若しくは近隣商業地域
街づくり協議地区	鶴見駅周辺地区街づくり協議地区

なお、豊岡小学校東側敷地は、資産の有効活用の観点から、総合的な利活用を検討していきます。



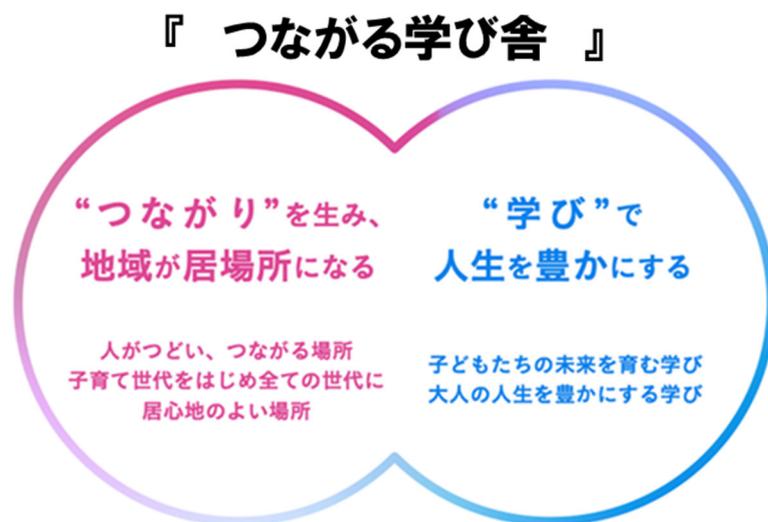
【位置図】複合施設計画敷地

2. 目指す姿

2.1 複合施設のコンセプト(目指す姿)

(仮称)豊岡町複合施設は、各公共施設の機能を高めるだけでなく、これまでの公共施設の枠組みを超えて、それぞれの機能を重ね、新たな活動や学び、出会いを創造していくことにより、世代や国籍を超えてあらゆる方に活動・学びの場や居場所を提供し、賑わいを創出できる施設となることを目指します。

また、子育て世代の皆様がこの地域で子育てしたいと感じていただき、あらゆる世代の方々にとって住みたい地域、住み続けたい地域としてコミュニティ・生活環境づくりとまちの魅力を高めていくことを目指します。



① 子育て生活に彩りをそえる

- 人のつながりによる、地域での子育ての安心感、身近な子育て支援等
- 多様な主体(小学校、図書館、保育所、つるみ区民活動センター、地域、民間、NPO等)の連携による、子どもの豊かな学び・体験の機会の創出
- 次世代に求められる豊かな能力の育成
- 子どもや子育て世代が安心して充実した時間を過ごせる居場所づくり

② 多世代が楽しく学び、活動し、つながり、賑わう

- 気軽に立ち寄り、居心地よく過ごせる場づくり
- 人や活動が自然とつながる運営や空間づくりの工夫
- 民間機能と連携した運営の工夫による活力や賑わいの促進
- あらゆる世代が生き生きと学び、活動できる場づくり

③ 地域の思いを新しいコミュニティの形に

- 多様な主体の連携、多世代交流、多文化共生による、コミュニティの創出
- 地域住民等が活躍できる機会づくり
- 地域活動、コミュニティビジネス等の活性化サポート



親子の居場所



人や活動がつながる

(高円寺アパートメント

※写真提供/株式会社まめくらし)



多文化共生

2.1.1 コンセプト策定までの経緯

複合施設のコンセプトの検討にあたり、市民の皆様を対象に、意見交換を行いました。ワークショップ「鶴見みらいトーク つながる・まなぶ 豊岡町複合施設を考える」¹及び意見交換会「(仮称)豊岡町複合施設再編整備事業基本構想(素案)の策定に向けた意見交換会」²では、活発なご議論をいただき、学校、図書館、保育所、つるみ区民活動センターの既存機能の充実とともに、それら機能の複合により、新たな活動が生まれることに多くの期待が寄せられました。

ワークショップ、意見交換会の主なご意見(複合施設に期待する活動等)

子育て応援	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てを応援していくというコンセプトには共感するので、子育てをキーワードに地域が盛り上がってくれと嬉しい。
居心地の良さ	<ul style="list-style-type: none"> ● 目的がなくても立ち寄り、ゆっくり過ごせると嬉しい。 ● 先端技術導入による話題性や効率化などを意識すると良いと思うが、近未来的なものというよりは地場資源の活用や温かみのある自然志向の施設であると居心地が良い。
多文化共生	<ul style="list-style-type: none"> ● 多文化や多様性について学べ、助け合いが生まれると良い。
多世代交流	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもからお年寄りまでの多世代が安心して1日過ごせるようになると良い。 ● かつては子どもと高齢者が交流できる機会を商店街が担っていたが、多様な人が同じ空間に同居することも大切だと思う。

¹ ワークショップ:(仮称)豊岡町複合施設での魅力的な過ごし方、使い方等について意見交換、令和5年5月開催。鶴見区在住、在勤、在学の方を対象に、2回実施、計30人参加。

² 意見交換会:(仮称)豊岡町複合施設のコンセプト、機能・サービスの内容等について意見交換、令和5年10月、11月開催。豊岡小学校児童保護者、豊岡地区、鶴見中央地区にお住まいの方、商店街の事業者の方を対象に、3回実施、計24人参加。

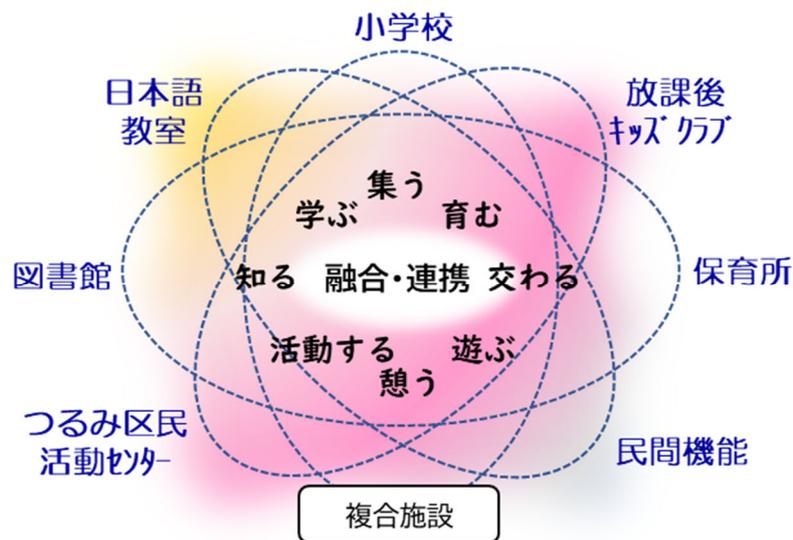
2.2 複合施設の運営、整備の方針

2.2.1 複合施設の基本的な方針

(仮称)豊岡町複合施設では、各公共施設の機能のうち、新たな活動や学び、出会いの創造が期待できるものをつなぐ、又は拡充することで、更に充実した市民サービスの提供を目指します。

また、各公共施設等のサービスとの相乗効果を期待して、2.1に示した複合施設のコセプトに合った民間機能の導入を検討します。

小学校、図書館、保育所、つるみ区民活動センター、地域、民間、NPO 等、多様な主体が連携して、子どもの豊かな学び・体験の機会の創出や多世代交流、多文化共生によるコミュニティの形成、将来にわたる地域の魅力向上に取り組みます。



【イメージ図】施設の融合・連携

2.2.2 効率的な施設整備・管理等

複合する各公共施設の廊下や機械室、類似する部屋などを支障のない範囲で共有化・多目的化することで、それぞれの施設を1施設ずつ単館で建替えた場合に比べて面積を縮小し、建設コストや維持管理費の縮減を図ります。

また、事業手法についても、公民連携を視野に入れ、総合的な視点から比較検討を行い、最適な事業手法を選択していきます。

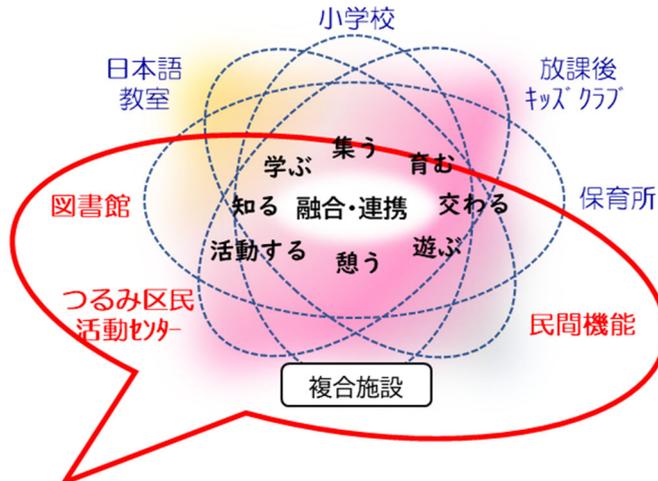
2.3 各施設の基本的な機能・目的等

各施設の機能等は次のとおりです。

豊岡小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 基礎的な普通教育を提供します。 ● 児童が安心・安全な環境で豊かに学び、育つことを目指します。 ● 学校と地域が連携・協働して子どもの育ちや成長を支えることを目指します。 ● 地域の防災拠点としての機能を有します。
豊岡小学校 放課後キッズクラブ	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校施設を活用して子どもたちの放課後の「遊びの場」、留守家庭児童の「生活の場」を提供します。 ● 複合施設の機能や活動と連携し、児童の状況や発達段階を踏まえながら、その健全育成を図ることを目指します。
日本語教室豊岡教室	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本語指導が必要な児童生徒が「安心して」「豊かな」学校生活を送り、社会で活躍していくための素地を育む支援を行います。
鶴見保育園	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育を必要とする子どもの保育を行い、入所する子どもの健やかな心身の発達を図ります。 ● 市立保育所の持つ特長を生かして、地域ごとに保育資源ネットワークを構築し、保育の質の維持・向上及び地域における子育て支援の充実に向けた取組を行います。 ● 養育支援強化や障害児保育に取り組み、保育のセーフティネットの機能を担います。
鶴見図書館	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域特性に応じた、特色ある蔵書・情報を提供します。 ● 本の貸出しと情報を届けるサービスに加え、体験と実践、交流の機会を提供します。 ● 子どもたちの声が許容されるなど、子どもたちが幼い時から図書館で読書を楽しめるような環境を提供します。 ● 子ども・子育て世代、高齢者の方、障害のある方など、多様な利用者のニーズに応えることができ、滞在したくなるような居心地のよい空間を提供します。
つるみ区民活動センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 区民の地域活動や生涯学習を支援します。 ● 地域課題の解決や魅力ある地域づくりを目指し、様々な主体が連携協働した活動に取り組めるようコーディネートします。 ● 複合施設の各機能と連携し、様々な区民が地域活動に参画するきっかけづくりや、新たな交流・ネットワークが生まれる「場づくり」を進めます。
民間機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 複合施設のコンセプトの実現に寄与する機能を想定します。

2.4 融合・連携による機能

2.2.1 で示したように、各公共施設の機能に加え、各公共機能や民間機能が連携し、新たな出会い、学び、活動を想像し、充実した市民サービスの提供を目指します。小学校、保育所も、各機能との有効な連携を検討します。



活動内容	機能等イメージ	施設の一列※1
憩う・集う	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に入れ、落ち着いて、居心地よく過ごせる場 ・自然と人のつながりが生まれる場 	ラウンジ、カフェ 情報コーナー
交わる・活動する (地域活動・生涯学習)	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代や多様な国籍の方々が交流し、つながる ・地域の活動を知り、つながるきっかけづくり ・地域の活動や多様な文化の発信 	ギャラリー、多目的スペース コワーキング(働くための共同スペース)
学ぶ・交わる (小学生・中高生)	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな発見や満足感を得られる創造性を刺激する学びやものづくりを体験できる場 ・子ども同士のコミュニケーション、共同活動を通じて多様な能力が育まれる場 	ラーニングcommons※2、 STEAMラボ※3、知育系施設
遊ぶ・過ごす (小学生・中高生)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが楽しく元気に過ごせる場 ・保護者も安心できる子どもの居場所 	プレイスペース、学習スペース
遊ぶ・交わる (親子・乳幼児)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが楽しく元気に過ごせる場 ・好奇心をそそる、工夫された空間や働きかけ ・保護者がくつろぎ、交流できる場 ・情報発信や相談を通じた子育て応援 	親子フリースペース 託児、子育て相談
知る・深める	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な学びを深める場 ・学びや活動の課題解決を支援する場 	読書、学習、仕事スペース 情報支援、ICT
健康増進	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツによる健康づくり ・スポーツを通じての憩い・交流 	スポーツジム、プール

※1 民間事業者からのご意見や提案内容にもよりますので、これで確定したものではありません。

※2 複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスも提供する。(文部科学省「大学図書館の整備について(審議のまとめ)」(平成22年)用語解説より)

※3 科学、技術、工学、アート、数学を、総合的に応用してものづくりを行うための教室や研究室など。

●STEAM ラボ(戸田市立戸田東小学校)
※写真提供 / 戸田市教育委員会



融合・連携による機能は、前述のワークショップ「鶴見みらいトーク つながる・まなぶ 豊岡町複合施設を考える」及び意見交換会「(仮称)豊岡町複合施設再編整備事業基本構想(素案)の策定に向けた意見交換会」で議論された、「市民の期待する活動」等を踏まえて整理しました。

ワークショップ、意見交換会の主なご意見(複合施設に期待する機能)

憩う・集う	<ul style="list-style-type: none"> ● あらゆる年代の人が受け入れられる場であってほしい ● 気軽に立ち寄れる場があると嬉しい ● 皆が集まれる場があることが大切だ
交わる・活動する	<ul style="list-style-type: none"> ● 多文化を理解し合う関係性をつくりたい ● 地域の活動に触れたい・触れてほしい ● 地域が賑わい、まちの魅力が向上すると嬉しい ● まちの歴史を守りたい
学ぶ・交わる	<ul style="list-style-type: none"> ● 誰でも学べる場であってほしい ● 語学学習の機会を通じて外国人保護者の方ともコミュニケーションを取りたい
遊ぶ・過ごす	<ul style="list-style-type: none"> ● 中・高校生の居場所や勉強の場がほしい ● 子どもが安全に遊べる場がほしい ● 子どもだけであっても安全に遊ばせたい ● 雨の日でも子どもが遊べる場があると嬉しい
遊ぶ・交わる	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの年齢が異なっても安全に遊ばせたい ● 子どもが自由に遊べる場がほしい ● 大人の目が届き、子どもたちの遊びの支援が受けられると安心だ ● 子育て世代が親子で集まれる場や子育て支援が受けられると嬉しい ● 障害児・医療ケア児等への配慮が必要だ
知る・深める	<ul style="list-style-type: none"> ● 年代を問わず学びたい人が利用できる生涯学習機能があると嬉しい ● 様々な情報ソースにアクセス出来ることが重要 ● 様々な専門的な情報があると安心だ ● 将来のニーズにも対応できるようにしたい
健康増進	<ul style="list-style-type: none"> ● 気軽に健康づくりができると嬉しい ● プールは民間活力を取り入れるなど、施設やサービスが充実すると嬉しい

3. 施設計画

3.1 複合施設整備の基本的な考え方

小学校の教育環境の向上を図るとともに、あらゆる利用者の方の利便性や安全性に配慮した魅力ある複合施設の整備を進めます。

○教育・保育環境の向上

- 小学校、保育所は、施設整備基準等に基づき、必要な広さ(教室、グラウンド、保育室等)や機能を整備します。
- 小学校・保育所には、専用の出入口を設けるなど、必要なセキュリティを確保し、安全安心な環境を整えます。

○利便性や安全性への配慮

- 各施設の配置は、利用者の利便性や安全性に配慮した計画とします。
 - 各施設の利用者が利用しやすく、安全な出入口を確保します。
 - 児童生徒の登下校等や各施設の利用者の利用動線、車両動線等を分離します。
 - 多様な方々が安心して使いやすい施設となるよう、ユニバーサルデザインに配慮した計画とします。
 - 小学校の体育館は授業での使用に加え、地域の人々が災害時に利用することを考慮した配置とします。
 - 条例等に基づき必要な駐車場・駐輪場台数を確保するとともに、利用性や安全性の観点から適切な位置に配置します。

○地域防災拠点の機能

- 地域防災拠点としての機能を確保します。
 - 建替え中も体育館棟は地域防災拠点としての耐震性を確保して整備します。

○「複合施設のコンセプト」(P.6)を踏まえた空間づくり(図書館、つるみ区民活動センター等)

- 横浜市図書館ビジョン(素案)(以下「ビジョン(素案)」という。)の趣旨を踏まえた施設整備を行います。

【参考:新たな機能・機能拡充に伴う空間づくりの考え方「居心地のよい空間づくり」(ビジョン(素案)より)】

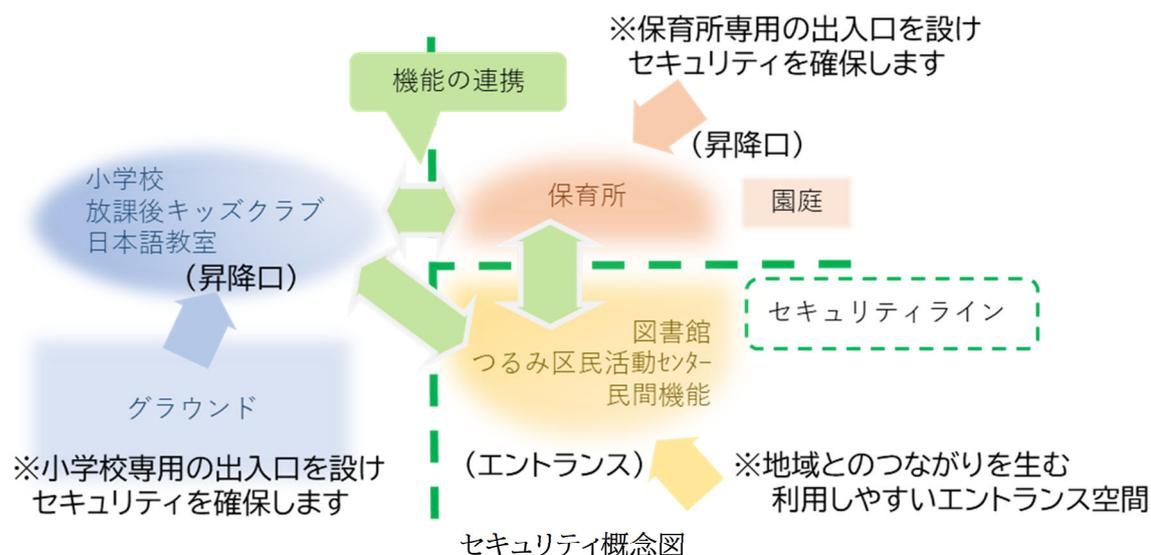
これからの図書館では、子ども・子育て世代、高齢者の方、障害のある方など、多様な利用者のニーズに応えられる、滞在したくなる、居心地のよい空間づくりを進め、図書館で過ごす中で様々な活動に触れられ、参加を後押しできる場となります。そのために必要な、くつろぎや体験・実践、交流・にぎわいの空間など、地域性と施設規模に応じた諸室を配置します。(下図はスペースと過ごし方のイメージ)



- 複合化による利用者の増加と複合施設内の多様な活動を支えるため、図書館の所蔵する蔵書・情報を拡充し、機能を充実します。
- デジタルインフラの整備などにより、図書館の本を、施設内のどこでも自由に持ち歩くことができる環境を検討します。
- 施設間で共有できる開放的な空間、気軽に利用・滞在できる空間を設けるな、人や活動への関心が広がり、自然とつながりが生まれるような空間づくりを工夫します。
- あらゆる世代や国籍の方にも分かりやすい情報提供や交流の場の創出に取り組みます。
- 子どもの学びと読書を支えるため、学校図書館と市立図書館が連携しやすい配置を検討します。
- 市民の主体的な学びと活動を支え、地域の担い手づくりへとつなげるため、図書館とつるみ区民活動センターは機能融合できる配置を検討します。
- 豊岡通り側に賑わいが生まれるような空間形成とします。

○環境への配慮

- 「横浜市地球温暖化対策実行計画(市役所編)」や「横浜市の公共建築物における環境配慮基準」、「横浜市建築物における木材の利用の促進に関する方針」等に基づき、環境性能の高い施設整備、木材利用の促進、再生可能エネルギーの導入等を検討します。



滞在できる空間

(石川県立図書館/写真提供:石川県立図書館)



開放的な空間

(大和市文化創造拠点シリウス/写真提供:近代建築社)

3.2 整備機能と必要諸室

3.2.1 小学校

(1) 基本機能

- 「心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なもの」(学校教育法第 29 条)を提供し、日常生活に必要な各般の能力を養うことにより、社会生活を営むため必要な資質・能力の基礎を身に付けるとともに、自分の個性を発見する素地を育てます。
- 「横浜市教育ビジョン 2030」において、「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」の育成を目指しています。
- 地域との連携・協働により、子どもたちが社会とつながる機会を創出し、子どもの学びや育ちを支えています。
- 地域防災拠点として、防災備蓄庫を設置するとともに、防災資機材・食料等の備蓄を進めています。

(2) 整備運営方針

- 学習指導要領や「横浜教育ビジョン 2030」を踏まえ、「横浜市小・中学校施設整備水準」及び「横浜市立小・中学校の建替えに関する計画・設計の考え方」(令和 5 年 3 月改定)等に基づき、整備します。(詳細は P.31 参照)
- 児童が安全に、安心して、快適に過ごすことができる、多様で豊かな学びの場を整えます。
- 4棟に分かれている校舎棟・体育館を集約化し、移動動線の短い、使い勝手の良い配置とします。
- 現在不足している多目的室、会議室等を新たに設け、アリーナ面積 720 m²の体育館を整備します。
- 体育館やグラウンド、特別教室等は、土・日曜日や放課後、長期休業中に地域等で利活用できるよう、利便性の高い配置とし、地域活動の活性化や地域の魅力向上、価値の向上に寄与します。
- 学校プールについては、民間機能の活用を図ることができる場合、整備しないことも検討します。

(3) 施設の配置方針

- 他施設の利用者と移動動線・車両動線が交わらないよう、動線区分の分離等によりセキュリティを確保します。
- 原則として諸室を低層階に配置します。体育館を1階以外に配置する場合は、1階に一時的避難スペースとして使用可能な多目的教室等を配置し、災害時のバリアフリーに配慮します。

(4) 必要諸室と規模

必要諸室		現面積(m ²)	整備後(m ²)※
教室等	普通教室、個別支援教室、特別教室、多目的室等	約 2,500	3,000 程度
管理諸室	校長室、職員室、保健室等	約 500	850 程度
体育館	アリーナ、その他	約 600	1,100 程度
給食室		約 400	350 程度
その他	共用部(廊下・昇降口等)	約 2,300	2,470 程度
日本語教室	職員室、学習室	約 100	100 程度
放課後キッズクラブ		約 100	130 程度
合計		約 6,500	8,000 程度

※整備後の面積は、令和5年度義務教育人口推計表の児童数推計に基づく。

3.2.2 放課後キッズクラブ

(1) 基本機能

- 学校施設を活用し、「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた安全で快適な放課後の居場所を提供することが目的です。放課後子供教室及び放課後児童健全育成事業を一体的に実施しています。利用者は、原則として当該小学校に通う児童です。

放課後子供教室 (所管:文部科学省)	安全で健やかな放課後の居場所づくりを促進し、異年齢児間の遊びや交流を通じて、子どもたちの創造性、自主性、社会性などを養う。
放課後児童健全育成事業 (所管:こども家庭庁)	児童福祉法に基づき、保護者が就労等により昼間家庭にいない子どもたちに、遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図る。

(2) 整備運営方針

- 遊び及び生活の場としての機能並びに静養するための機能を備えた区画を設けるほか、必要な設備及び備品等を備えます。

(3) 施設の配置方針

- 専用ルームのほか、子どもたちの活動場所として、グラウンドや体育館等を利用しています。また、児童数により学校と協議のうえ、図書室や音楽室などの特別教室も利用する必要があります。そのため、これらの活動場所を隣接させる等、動線を意識した配置を検討します。
- 土曜日及び長期休業中も開所するため、行き帰りの動線について配慮する必要があります。

(4) 必要諸室と規模

3.2.1 小学校に記載

3.2.3 日本語教室

(1) 基本機能

- 日本語の初期指導が必要な児童生徒に対して、日本語指導資格をもった講師が指導を行います。
- 講師を小学校へ派遣する指導と、児童生徒が通う集中教室での指導があります。集中教室は市内5か所に設置されており、豊岡教室はその内の一つです。
- 豊岡日本語教室の通級者は、市立中学校に在籍する中学生と豊岡小学校に在籍する小学生のうち、日本語指導が必要な児童生徒で、定期的に通級して日本語指導を受けています。
- 日本の生活に慣れていない外国籍等児童生徒が日本の学校に早期に適應できるよう、学校施設内に設置しています。

(2) 整備運営方針

- 言語指導ができる、静かな教室環境を確保します。

(3) 施設の配置方針

- 小学校敷地内に中学生が通うため、移動動線や安全面に配慮します。

(4) 必要諸室と規模

3.2.1 小学校に記載

3.2.4 保育所

(1) 基本機能

- 保育所は、児童福祉法第 39 条の規定に基づき、保育を必要とする子どもの保育を行い、その健全な心身の発達を図ることを目的として、入所する子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進します。
- 入所する子どもを保育するとともに、家庭や地域の様々な社会資源との連携を図りながら、入所する子どもの保護者に対する支援及び地域の子育て家庭に対する支援等を行います。

(2) 整備運営方針

- 子どもの活動が豊かに展開されるよう、保育所の設備や環境を整え、保育所の保健的環境や安全の確保に努めます。
- 保育室や園庭は、現在の施設整備基準に基づき、必要な広さを確保します。
- 保育室の採光に配慮するとともに、園庭の日照を確保します。

(3) 施設の配置方針

- 災害避難の観点から、原則として保育室は1階、園庭は地上とします。2 階以上に設ける場合には、避難階段の設置など、防災上の必要な措置を講じます。
- 保育室や園庭、駐車場の配置等は、登降園時の動線やセキュリティを考慮します。
- 小学校や図書館など、他の複合施設と機能融合・連携しやすい配置とします。

(4) 必要諸室と規模

必要諸室		現面積(m ²)	整備後(m ²)
保育室		約 250	285 程度
遊戯室		-	50 程度
相談室	相談室・育児支援室	約 30	45 程度
一時保育室		-	40 程度
調理室	調乳室含む	約 45	55 程度
事務室等	休憩室・更衣室含む	約 40	85 程度
その他	廊下・倉庫・トイレ等	約 255	340 程度
合計		約 620	900 程度

3.2.5 図書館

(1) 基本機能

- 「横浜市図書館ビジョン(素案)」では、「知る・学ぶ・深める」という知識や情報を得ることができる権利を保障するという従来からの役割に加え、未来を担う子どもたちや子育て世代をはじめとした全ての市民一人ひとりにとって居心地のよい「つどい・憩う」場所になること、「遊ぶ・体験する」「まちとのつながり・交流」「連携・協働」など機能の充実による拡張を目指しています。
- 「第二次横浜市民読書活動推進計画」では、市民の読書活動と、学びや課題解決を支える地域の情報拠点としての役割が期待されています。

(2) 整備運営方針

- 市民の知的な活動や課題解決を支える拠点として、幅広くバランスの良い蔵書や地域資料等の適切な収集・保存、「多文化共生」等鶴見区の特性を踏まえた蔵書を構築し、情報を魅力的に提供できる図書館空間の形成を検討します。
- 多様な知や人・文化との出会いや体験を通して、子どもたちの「知りたい」「創りたい」を引き出すわくわくする場となり、「自ら学び 社会とつながり とともに未来を創る」³子どもたちを育むとともに、子育て支援施設や学校など地域とのつながりのなかで、子育てを支援します。
- 読む・知る・体験することのバリアを取り除き、あらゆる世代・多様なニーズを包摂(インクルージョン)する、読書と体験ができる居心地のよい居場所となることで、人々がつどい、様々なつながりと新たな発想を生み出す、交流・創造・発信の拠点となります。
- 市民、団体、企業等が持つ情報・知識を集め、協働・共創により地域の魅力を引き出し、人々の暮らしの豊かさと地域の課題解決を支援する、まちづくりのプラットフォームになります。

(3) 施設の配置方針

- 本複合施設の中で、最も利用者が多い施設となることが予測されるため、利用者の利用動線に配慮し、さらに、いわゆるシャワー効果などの事例を参考に、施設全体の賑わい創出に寄与できる配置とします。
- 複合施設の様々な施設と機能融合・連携しやすい配置とします。
- 子どもやその保護者が利用しやすいように、授乳室やベビーカー置き場、飲食コーナー等、必要とされる子育て支援機能を適切に配置します。
- 24 時間利用可能な返却ポストを屋外に面した 1 階に設置します。
- 本の運搬がほぼ毎日必要であることから、荷捌き場から濡れずに図書館まで安全に本を運ぶことができる作業動線に配慮した配置とします。
- 増加する図書館利用に対応できるよう、館内での職員の作業効率・安全に配慮した配置とします。
- IC タグなど、デジタルインフラの導入について、市での検討状況を踏まえ、必要な機器を適切な場所に配置します。

³ 自ら学び 社会とつながり とともに未来を創る人：「横浜教育ビジョン 2030」(平成 30 年2月策定)の、横浜の教育が目指す人づくりより

(4) 必要諸室と規模

これからの図書館に必要な機能を備えた諸室の面積は、他の図書館の面積等を参考にしつつ、地域の特性、周辺施設の状況、敷地の条件等を総合に検討し算定することが必要です。横浜市図書館ビジョン策定後に、同ビジョンの推進に向けて、諸室や規模を検討します。

- 現在の諸室

必要諸室		現面積(m ²)
書架・閲覧・ カウンタースペース	児童書コーナー、一般書コーナー、閲覧席、カウンター	約 800
書庫		約 100
会議室		約 70
事務室	事務室、ロッカー室、給湯室、休憩室、予約図書配送・仕分作業スペース、倉庫、返却ポスト室	約 200
その他・共用部等	トイレ、廊下、エレベーター、機械室等	約 340
合計		約 1,510

- 機能拡充に必要な諸室の考え方(横浜市図書館ビジョン(素案)参考)

「子どもや子育て世代が利用しやすい環境づくり」

安全・安心・清潔な環境整備を進めます。また子どもたちの声が許容され、くつろいで過ごせる空間づくりを行います。

「居心地のよい空間づくり」

子ども・子育て世代、高齢者の方、障害のある方など、多様な利用者のニーズに応えられるよう、利用者が必要としている環境を考慮し、施設内の時間的・空間的ゾーニング、スペース・諸室及び設備の配置などを進めます。(下図はスペースと過ごし方のイメージ)



「体験・交流の場づくり」

これまでの図書館は、本の貸出しと情報を届けるサービスを中心に実施してきました。これからの図書館では、従来のサービスに加え、体験と実践、交流の機会を充実させていきます。

※ 機能の拡充に必要な諸室及び整備後の面積は、つるみ区民活動センター、民間機能との機能融合、連携を踏まえて、複合施設全体として検討します。

3.2.6 つるみ区民活動センター

(1) 基本機能

- 地域課題の解決や魅力ある地域づくりを目指し、多世代交流、多文化共生、子育て支援、自治会・町内会の地域活動支援等、様々な市民公益活動と生涯学習を支援します。また、様々な世代の区民が地域活動に参画しやすい場づくりを目指します。

<役割>

- 区民の地域活動や生涯学習を支援します。
- 区民の活動が不特定多数の人に対し寄与する市民公益活動へと発展するよう促します。
- 地域課題の解決や魅力ある地域づくりを目指し、様々な主体が連携協働した活動に取り組めるようコーディネートを行います。

(2) 整備運営方針

- 図書館や保育所、民間部分の利用者が訪れ、区民の地域活動を知ってもらい、地域活動の担い手候補が増えるよう、相互の往来や回遊性を意識しながら“区民が気軽に立ち寄れる”フロア構成とします。
- 図書館との機能融合の方向性を踏まえ、図書館と一体的かつスケールメリットを生かした企画展示や講座を開催するためのスペースを整備します。
- 区民の地域活動や生涯学習を支援できるよう、用途に応じた会議室やミーティングスペースのほか、印刷コーナーを整備します。
- 団体の地域活動や地域ボランティアの取組に参画する区民を増やすため、各取組を紹介する PR コーナーを設置します。
- 区民が地域活動に必要な情報を収集し、相談できるよう、相談ブースを設置します。
- 鶴見区の特徴を踏まえた区民の地域活動を促進するため、鶴見区の歴史や文化などに関する図書コーナーを設置します。

(3) 施設の配置方針

- 図書館や保育所、民間部分との相互の往来や回遊性を意識した配置とします。

(4) 必要諸室と規模

- 現在の諸室

必要諸室	現面積(m ²)
会議室・ミーティングスペース・企画講座スペース	約 100
相談・コーディネートコーナー	約 40
PR コーナー	約 5
図書コーナー	約 5
その他	約 20
合計	約 170

※ 整備後の面積は、図書館や民間機能との機能融合、連携を踏まえて検討します。

3.2.7 民間機能

- 2.4に示す機能や複合施設のコンセプトの実現に寄与する機能を想定します。
(例)
 - 各機能をつなぎ、多世代が集い、憩うことができる機能(カフェ等)
 - 新しい学びや体験等ができる機能(子ども向けの知育系施設、学び・体験サービス等)
 - スポーツを通じた憩いや交流を生む機能(プール、ジム等)
 - 身近な子育て支援の機能(子育て応援サービス、子ども向け食事サービス等)
 - 子どもが気軽に集い、自由に遊ぶ場を提供する機能
- 小学校、図書館、保育所及びつるみ区民活動センター等と連携が図られ、子どもたちの豊かな育ちにつながるような環境整備を検討します。
- 商店街等の地域社会との連携により賑わいの創出やまちの魅力向上に寄与することを目指し地域が親しみを感じやすい空間形成を検討します。
- 民間機能の規模や詳細は、民間事業者からのご意見や図書館、つるみ区民活動センターとの機能融合、連携を踏まえて検討します。

3.2.8 複合施設の規模

現在の基準に合った設備や必要となる機能を確保すると、再編整備後の床面積は次のようになります。

○現在規模

施設・機能	豊岡小学校	放課後キッズクラブ	日本語教室	鶴見保育園	鶴見図書館	つるみ区民活動センター
現延床面積	約6,300㎡	約100㎡	約100㎡	約620㎡	約1,510㎡	約170㎡
築年数	築59年 (最古の棟)	築65年		築44年		築36年



○想定規模※1

整備後延床面積	民間機能
約8,000㎡ (放課後キッズクラブ、日本語教室を含む面積)	約900㎡
	検討中※2

※1 現時点の想定であり、確定しているものではありません。今後の設計段階において具体的に検討します。

※2 図書館、つるみ区民活動センター、民間機能との機能融合、連携を踏まえて検討します。

3.2.9 複合施設の配置の検討

3.1 の方針に基づき、配置パターンの標準的な例を示します。今後、配置のメリット、デメリットを精査し、配置の方針を検討していきます。

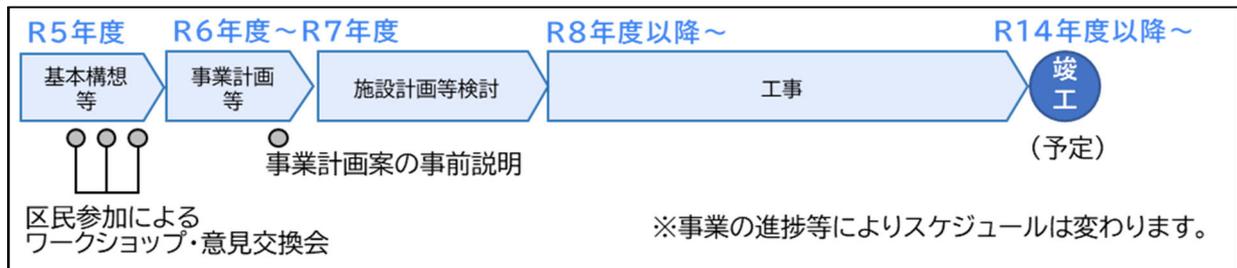
なお、次項に示す3つの例のいずれかに決まるものではありません。具体的な施設の配置は設計段階で決定していきます。

配置パターンの標準的な例

	パターン①	パターン②	パターン③
			
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・北向きの教室が多く配置される ・校舎を先行して建築することが可能 ・夏季のグラウンドへの日照を緩和できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・南向きの明るい教室を多く配置できる一方、一部北向き教室となる ・グラウンドで周辺からの視線が気になりにくい ・グラウンドの日照を確保できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・東向き、西向きの比較的明るい教室を配置できる ・通りの賑わいと開放感を出しやすい ・夏季のグラウンドへの日照を緩和できる

3.3 整備スケジュール

想定される事業スケジュールは以下の通りです。工事期間は、建物の配置等により前後しますが、6年程度と想定しています。工事期間を可能な限り短縮できるよう検討します。



4. 事業手法

事業の進め方である事業手法には、従来方式⁴をはじめ、民間事業者のノウハウを活用する様々な公民連携手法⁵があります。そのため、事業の実施に向けて、公民連携を視野に入れ、「質の高い公共サービスの提供」、「本市の財政負担の軽減や財政支出の平準化」、「工期の短縮」、「効率的な維持管理」、「複合化による相乗効果や新たな価値創出を実現できる施設運営」など、総合的な視点から比較検討を行い、最適な事業手法を選択していきます。

4.1 検討の視点

(1) 施設整備の視点

周辺環境への配慮、敷地の制約条件や各公共施設の整備条件等への留意に加え、効果的・効率的な施設配置を十分考慮し、工事期間の短縮にも資する計画を検討していきます。

また、効率的な維持管理、質の高い公共サービスの提供に向けては、整備後の維持管理・運営における視点も考慮した検討を進めていきます。

(2) 施設維持管理の視点

本市では、施設ごとに維持管理を行い、施設・設備の大規模修繕等は工事発注、小規模な修繕や維持管理は業務委託することが一般的です。

(仮称)豊岡町複合施設では、施設全体の包括的な修繕・維持管理も選択肢のひとつとし、効果的かつ効果的な修繕及び維持管理を目指していきます。

(3) 施設運営の視点

(仮称)豊岡町複合施設に整備予定の図書館、保育所などの運営は、現在、本市の直営ですが、本市の他の各公共施設では、公民連携手法などにより、民間企業が運営している施設もあります。

当該施設の運営においては、多世代交流や多文化共生を促すとともに、多様な学びや活動の機会の創出、将来にわたって地域の愛着ある居場所づくりの実現などに向けた工夫や、地域住民等の企画運営への参画など、多様な主体と連携して、複合施設のコンセプトを実現できる運営方法を検討します。

⁴ 従来方式とは、設計、建設、維持管理、運営等の各業務を、分離分割して発注する方式です。

⁵ 公民連携手法とは、公共施設の整備や運営にあたり、民間企業が有するノウハウ(資金、経営能力及び技術的能力等)を活かし、効果的かつ効果的に公共サービスの提供を図る手法です。具体的には、公共が資金調達して公共施設等の設計から工事までを一括で性能発注するDB方式(Design-Build)、民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律に基づくPFI方式(Private Financial Initiative)など、様々な手法があります。

4.2 主な事業手法

主な事業手法を以下に例示しました。

事業手法		特徴
従来方式		公共施設の設計、建設、維持管理、運営の各業務について、詳細な仕様を定めたうえで、業務ごと、年度ごとに発注する方式です。
公民連携手法	DB方式	公共施設の設計、建設を一括で、性能発注する方式です(維持管理、運営は別途発注します)。
	PFI方式	公共施設の設計、建設、維持管理、運営を一括で、性能発注する方式です(整備した公共施設の所有権移転の時期などにより、様々なタイプがあります)。事業費の一部について、民間企業が資金調達を行います。
	整備条件付き定期借地権方式	市有地を民間企業に貸し付けるうえで、公共施設等の整備を条件付ける方式です。民間企業が、公共施設と民間施設を一括して設計、建設、維持管理する中で、公共施設部分を市が借上げ、運営等行うものです。

※各手法の一般的な概要を示すものであり、事業ごとに仕様、性能、条件等は異なります。

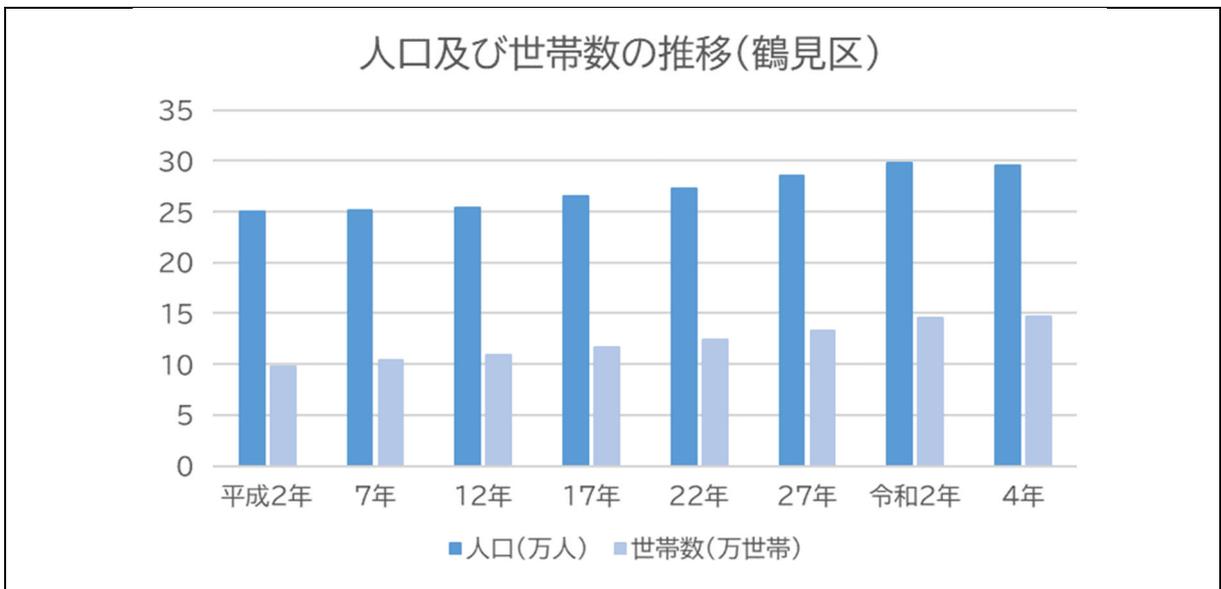
(参考)現状と課題

1) まちづくりの現状と課題

a. 地域の現状と課題

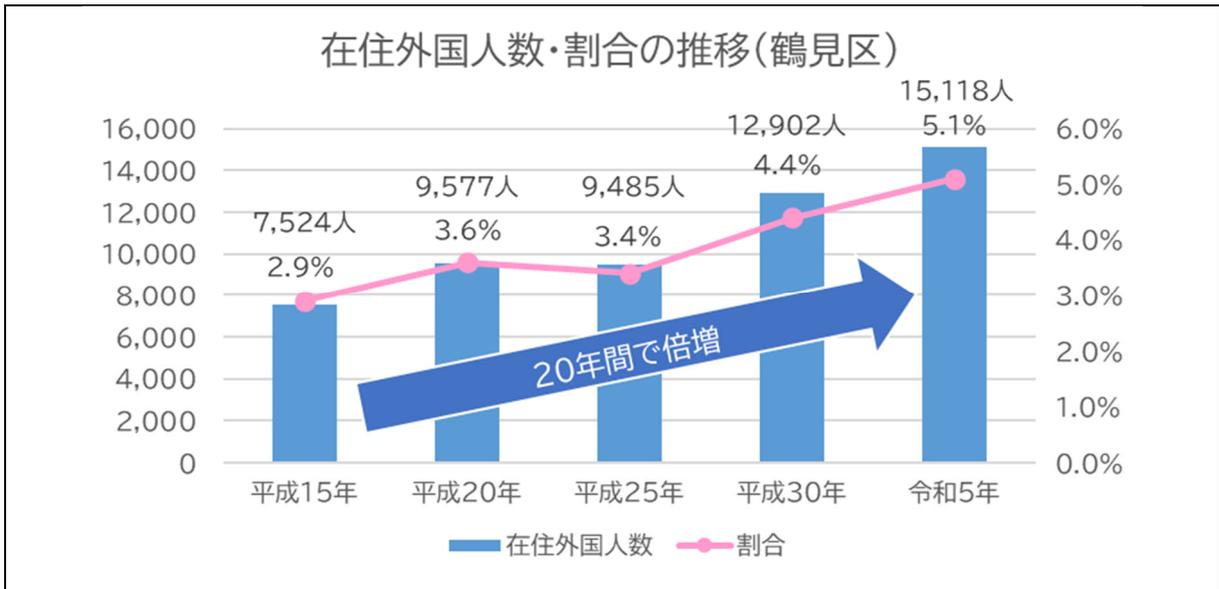
ア) 鶴見区

- 鶴見区の人口は、約 29 万 6 千人であり、市内 18 区中 3 番目です(令和 5 年 4 月 1 日現在)。将来人口推計では、今後も人口の増加が続き、令和 24 年を目安にピークを迎え、その後減少すると予測されています。
- 鶴見区の平均年齢は 44.66 歳と市内でも 4 番目に若く(令和 4 年 1 月 1 日現在)、出生数も市内に 2 番目に多い(令和 3 年) など、市内 18 区の中でも子育て世帯が多く暮らすまちです。



データ出所:国勢調査(各年 10 月 1 日現在)※令和 4 年は 10 月 1 日現在推計人口

- 鶴見区は中区に次いで、市内で 2 番目に在住外国人が多く、令和 5 年 10 月 31 日時点で、約 1 万 5 千人です。在住外国人の割合は約 5.1%で、区民の 20 人に 1 人が外国人です。過去 20 年間で人数、割合ともに倍増しており、今後も増加することが予想されています。国籍別では、人口の多い順に中国、ベトナム、フィリピン、韓国・朝鮮、ブラジルとなっています。鶴見区の特徴として、他区と比べて南米国籍が多いこと、また近年はベトナム・ネパール国籍の急増など、ますますの多国籍化の傾向があり、きめ細やかな支援の必要性が高まっています。
- 平成 20 年 6 月に、「鶴見区多文化共生のまちづくり宣言」を発表し、言葉の壁や文化の違いを踏まえ、外国人も日本人もいきいきと暮らせるまちづくりを進めています。
- 鶴見区は、国内外のアクセスに優れた羽田空港や品川駅などの東京都心部、横浜駅やみなとみらい地区に近接しています。JR 鶴見駅・京急鶴見駅の乗車数は計 8.0 万人/日(令和 4 年度、JR 鶴見線は非公表のため含まない)となっており、コロナ禍以前の水準(計 9.7 万人/日(令和元年度))には戻っていません。また、鶴見駅の東口・西口を中心に路線バス網も構築されています。



データ出所:横浜市統計情報ポータル(政策局統計情報課)

イ) 豊岡地域

- 駅周辺の主要な生活拠点である鶴見駅周辺に位置し、業務・商業施設や公共施設が集中していますが、更なる拠点機能の充実が求められています。
- 古くから商店街や様々な公共施設が立地しており、駅周辺の主要な生活拠点としての特性を生かした環境づくりが必要とされています。一方で、放置自転車などによる環境の悪化の防止と改善が課題となっています。
- 地域の課題等を踏まえ、「都市計画マスタープラン 鶴見区プラン」では、地域の方針として3つの目標を定め、まちづくりを進めています。

- ① 鶴見駅周辺の拠点機能の充実や、交通環境の改善、違法駐輪対策とマナー向上を図るなど、鶴見駅周辺の拠点性を高め、安全で快適な移動しやすいまちをつくる
- ② 緑化の推進や地域資源の活用、防災性の向上を図るなど、地域の資源を生かし、魅力的なまちをつくる
- ③ 商店街の活性化や既存施設の活用を図るなど、身近な商店街や地域施設の利便性を向上し、暮らしやすいまちをつくる

2) 各施設の現状

a. 各施設の現状と課題

ア) 豊岡小学校

- 豊岡小学校は、現在の場所に大正 12 年8月に創立した歴史ある小学校です。令和5年 11 月には、創立 100 周年式典を開催しました。
- 令和5年5月1日現在、児童数 755 人、28 学級の学校です。また、全校児童の約 1 割が外国籍や外国につながる児童です。

- 豊岡小学校の学校教育目標は、「学び合い 高め合い まちとともに明日を拓く豊岡っ子」です。

【学び合い 高め合い まちとともに明日を拓く豊岡っ子】

『知』 自ら、問題意識をもって追究し、主体的に学ぶ力を育てます。

『徳』 互いのよさや違いを認め合い、思いやりの心を育てます。

『体』 健康な生活を実践し、体力を高め、心身ともにたくましく生きる力を育てます。
--

『公』 「まち」と進んでかかわり、「まち」を愛する心を育てます。

『開』 多様な考えを尊重し、新たな価値に気付いて、共に行動しようとする子を育てます。
--

- 地域防災拠点に指定されており、防災備蓄庫を整備し、防災資機材や食料等を備蓄しています。地域防災拠点運営委員会が組織されています。

老朽化と改善が必要な教育環境

- 最も築年数が古い建物(東校舎)が建築後 65 年を経過するなど、老朽化が進んでいます。
- 多目的室や会議室、地域交流スペース等が不足し、体育館のアリーナ面積が狭小など、現在の「横浜市小・中学校施設整備水準」を満たしていません。また、増改築を繰り返してきたため、校舎や体育館が複数棟に分かれており、使い勝手が良くありません。現在は、グラウンドに仮設の家庭科教室も設置されています。
- 旧耐震基準の校舎が複数ありますが、耐震改修・耐震補強により安全性を確保しています。
- 老朽化対策と教育環境の改善を図るため、令和3年度に建替え対象校に選定しました。建替えは、複合施設であっても、「横浜市小・中学校施設整備水準⁶」及び「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する計画・設計の考え方」(令和 5 年 3 月改定)等に基づき、他の小学校の建替え同様に、教育活動に必要な機能を確保して行います。

⁶ 横浜市小・中学校施設整備水準:教育内容に必要な学校施設の諸室等の種類や面積を定めたもの。

「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する計画・設計の考え方」(抜粋)

項目		内容
配置計画	グラウンドの面積確保	120mトラック及び他の運動施設等が設置できる面積を確保することとし、約3,800㎡を標準面積としています。なお、建替えにあたっては上記に加え既存グラウンドの面積を確保することとします。
	体育館、プールの地上設置	体育館及びプールは、基準に沿った面積を確保すると共に、原則、地上レベル(グラウンドレベル)に設置します。体育館は、災害時における地域防災拠点として指定されているため、地震や風水害の際にも利用しやすい場所に設置します。
	複合化への対応	複合化にあたっては、児童生徒の学習環境と安全の確保に万全を期すとともに、複合施設の活動内容を考慮し、発生する音や視線に配慮した施設計画とします。また、それぞれの専用部分、共同利用部分の区域、防犯体制や管理に対する責任を明確にするなど、教職員に運営管理上の負担がかからないよう十分配慮します。
	災害への配慮	教育活動の再開時に、教育活動エリアと避難所エリアを分離しやすくするとともに、施設の利用にあたって両者の動線が交錯しないよう、普通教室群と体育館の配置に配慮するなど、災害時の避難者受け入れや地域防災拠点としての運営等も考慮した配置とします。
平面計画	普通教室等	普通教室の大きさは、縦8m×横8mの64㎡を標準とします。特別教室、多目的室、その他の諸室についても、8m×8mの普通教室のグリッドに合わせて配置することを原則とします。
立面計画 断面計画	階数	校舎棟は、3階建て以下を原則とします。 グラウンド面積の確保が困難な場合等においては、高層化の計画についても検討します。

- 児童の安全確保を図るため、敷地及び校舎内では周囲からの見通しが良く、死角が生じないような計画とします。また、不審者侵入対策など防犯についても、周辺の状況を踏まえて検討していきます。

地域連携の推進等

- 地域と学校の連携・協働体制を整備し、地域学校協働活動を推進するため、地域や保護者が学校運営に参画する「学校運営協議会⁷」と、幅広い地域の皆さんや団体等の参画によって地域学校協働活動を推進する「地域学校協働本部⁸」が組織されています。
- 地域の身近なスポーツ・レクリエーション・文化活動などの場として、学校教育に支障のない範囲で、学校施設を開放しています。運営は、「文化・スポーツクラブ」により、自主・自立的に行われています。

イ) 放課後キッズクラブ

- 豊岡小学校では、小学校施設を活用して、①全ての子どもたちを対象に無償で「遊びの場」を提供すること、②留守家庭児童を対象に「生活の場」を提供することを目的に、豊岡小学校放課後キッズクラブを実施しています。
- 小学校内に 2 教室分程度のスペースを確保していますが、登録者数は 246 名(令和5年 4 月時点)となっており、手狭になっていることから、多目的室等の他の部屋を借りる必要があります。

ウ) 日本語教室

- 日本語教室豊岡教室では、日本語指導が必要な児童生徒に対して、専門の資格を有する日本語講師が初期の日本語指導を行っています。
- 今後も日本語指導が必要な児童生徒が増加していくことが想定されるため、「安心して」「豊かな」学校生活を送り、将来、社会で活躍していただくための素地を育てていくため、支援体制の更なる充実が求められています。

⁷ 学校運営協議会:「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、地域住民や保護者等が一定の権限と責任をもち、それぞれの立場で当事者として活動し、学校運営に参画する仕組み。一定の権限とは、①校長の定める学校運営の基本方針を承認すること(必須)、②学校運営に関して教育委員会や校長に意見を述べること(任意)、③教職員の任用に関して教育委員会に意見を述べること(任意)の3点

⁸ 地域学校協働本部:従来の地域と学校の連携体制を基盤として、より多くの幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制

工) 鶴見保育園

市立保育所の役割

- 鶴見保育園は保育資源ネットワーク事務局園として、市立保育所の持つ特長を生かして、地域ごとに保育資源ネットワークを構築し、保育の質の維持・向上及び地域における子育て支援の充実に向けた取組を行っています。

果たすべき役割・機能

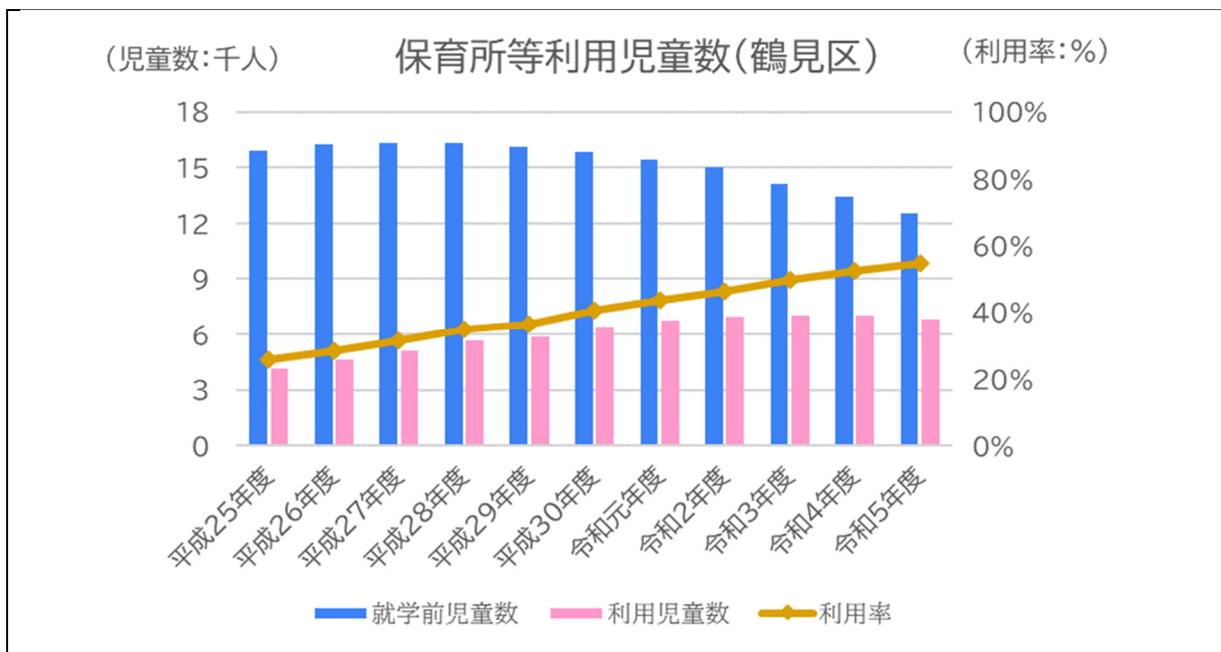
- ① 民間保育施設等との協働による保育の質の向上(実地研修・交流保育等の企画・実施)
- ② 地域子育て支援の推進拠点(地域への保育のノウハウの提供)
- ③ 地域の保育資源の連携・協働の推進(ネットワークの構築・運営における事務局的作用)
- ④ 保育施策上のセーフティネット(継続困難施設への支援・災害発生時等における対応)

地域の子育て支援

- 鶴見保育園は育児支援センター園として、子育て中の保護者の抱える不安や悩みの解消、乳幼児期の子どもの健やかな成長及び地域の育児力の向上を図るため、施設の地域開放、育児相談、育児講座、園児との交流保育などを実施しています。

保育ニーズへの対応

- 就学前児童数は減少傾向にあります、保育所等の利用率は増加傾向にあります。



データ出所:保育所等利用待機児童数について(横浜市記者発表資料)

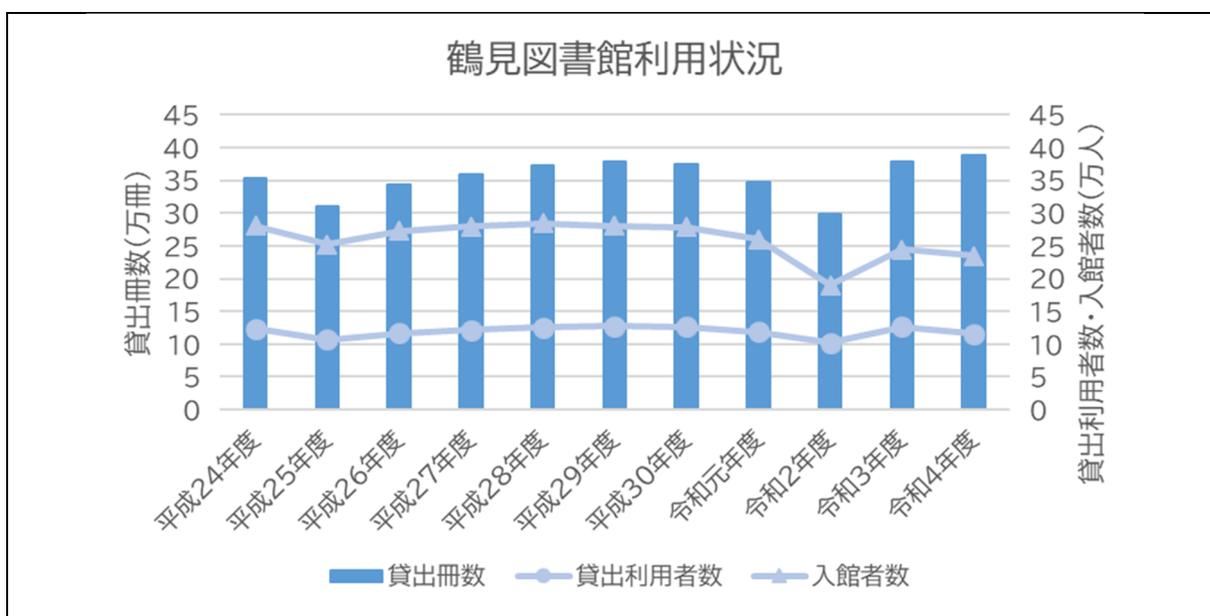
- 障害のある子どもや医療的ケアを日常的に必要とする子どもなど、個別的な配慮を必要とする子どもが、その子の特性や発達に応じて保育を受けられる環境を整えるとともに、一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな支援を行うことが求められています。
- 外国籍・外国につながる子どもが増加傾向にあり、保護者とのコミュニケーションの取り方や、言葉や文化の違いの理解など、多様性を尊重し、多文化共生の保育を進めていくことが求められています。

オ) 鶴見図書館

図書館機能の充実

横浜市立図書館は、市民の読書活動と、市民の生活・福祉・経済・医療・学び等の課題解決を支える知の拠点です。豊かな市民生活を実現するため、図書館機能の充実に取り組む必要があります。誰もが訪れやすく利用しやすい環境と蔵書・情報を備えた、多様で豊かな学びと読書のための図書館機能の充実を図ります。

- 鶴見図書館の利用状況を見ると、貸出冊数、貸出利用者数、入館者数とも新型コロナウイルス感染症拡大による影響のため、令和元年度、令和2年度に減少しましたが、令和3年度には貸出冊数が過去10年で最高値になり、令和4年度で更に増加しているなど回復傾向にあります。



データ出所:横浜市の図書館(横浜市立図書館年報)

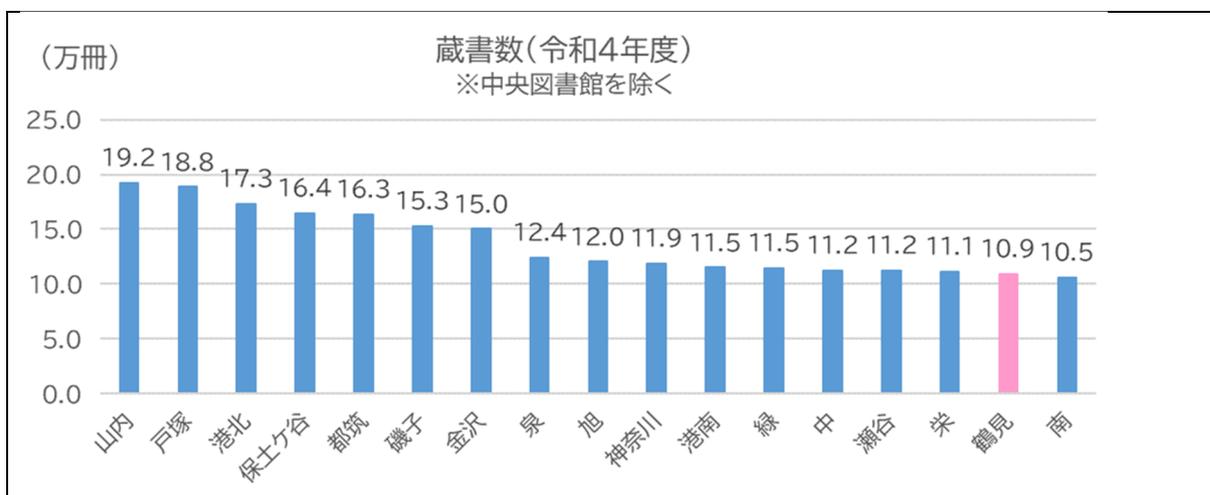
- 令和4年度に実施した子育て世代向けアンケートでは、より魅力的な図書館にするために必要な環境・設備を尋ねたところ、多かった回答は「子どもから大人まで談話しながら利用できる環境」(64.8%)や「子どもが遊べるスペース」(66.2%)でしたが、現在の図書館ではほぼ確保できていません。また、必要なサービス・機能として、「身近な場所での本の貸出・返却」(66.6%)や「子育て支援サービス(子育て相談・託児サービスなど)」(39.3%)が求められています。

- 令和 5 年度に行った図書館ビジョン策定に向けた市民ワークショップでは次のような意見・アイデアをいただきました。

蔵書充実など本を借りることを前提とし、更なる機能の充実について多くの話し合いがされていました

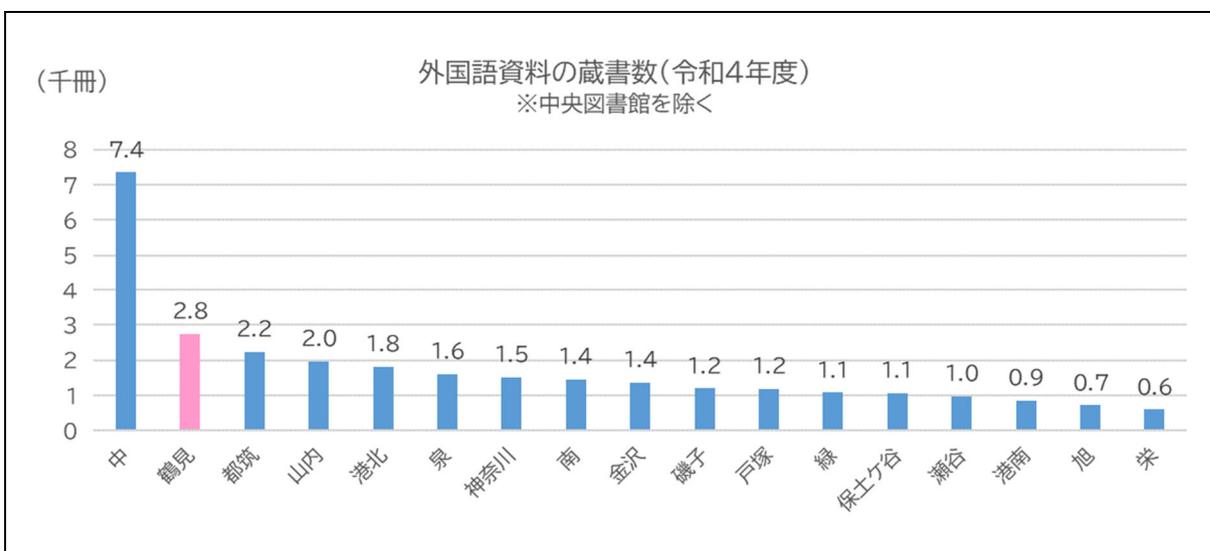
テーマ 行ってみたいくなる図書館	テーマ 子育てと図書館	テーマ まちの魅力づくりと図書館
<p>居場所としての図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気軽にに行けるアクセスの良さ ・行く目的となる魅力的な空間や居心地の良い場 ・不登校の子どもや障害者の方、誰にとっても安全で安心して過ごせる場所 <p>学ぶことができる図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識の学び ・答えのない問いやこれまでにない視点からはじまる新しい学びの展開 ・市民の知識や経験のシェア ・デジタル化による利便性向上 <p>交流することができる図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流スペースと静寂なスペースが共存するゾーニングの工夫 ・ブックトーク等本を介した交流イベントや、料理教室、コンサート等、本や読書にとらわれない多様なイベントや設備 ・様々なアイデアを交換し合う場 	<p>安心して子どもを連れていける場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清潔、安全、安心 ・声を出しても大丈夫、注意書きが少ないなど子どもや保護者を許容する空間 ・多様な子育て環境に対応した、利用しやすい立地・時間の図書館 ・公園の近くなど一日過ごせる環境 <p>親子で楽しめるサービス・イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会等本を介したイベント ・子どもと実社会がつながる学びの機会やイベントや専門家・企業とのマッチング ・親や家族にとっても図書館を利用しやすくなるサポート <p>子育て・子育てにいい資料・メディア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物に触れたり、体験できる場 ・本と体験が相互に連携した取組 ・子どもが一人で探しやすい配架や検索システム 	<p>まちの魅力づくりと図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築的にも魅力的な図書館 ・他の公共施設等の連携による身近で、かつ地域性のある図書館 ・障害のある方や一人暮らしの高齢者の方等、支援が必要な人へのサポート <p>地域資源と図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜で活動する様々な人や団体そのものが重要な地域の資源 ・本や人、情報、活動をつなぐ司書 ・図書館運営に関わる市民の存在 <p>つながりづくりと図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インプットも、アウトプットもできる場 ・共通の趣味や目的での学習会やコミュニティ活動 ・子育てや仕事を通じて生まれ、広がるつながり ・多世代、インクルーシブ、さらに大学、企業、団体との交流の場であり学びを社会還元できる

- 鶴見図書館の蔵書数は、一般書 73,166 冊、児童書 35,526 冊、総数 108,692 冊となっています(令和4年度)。鶴見区は市内で3番目に人口が多い区ですが、他の地域図書館の蔵書数と比べると、蔵書数は下から 2 番目に少ない図書館となっています。地域の情報拠点として、市民の暮らしに役立つ情報や学びのための読書に応えられるように、地域課題やニーズにあった蔵書の質・量の充実やレファレンス機能の強化が必要です。また、郷土に関する資料をはじめ、地域の歴史や文化に関する様々な地域情報を収集・管理・保存・提供していくことは、図書館の重要な機能の一つです。



データ出所:横浜市図書館(横浜市立図書館年報)

- 鶴見図書館では、第二次横浜市民読書活動推進計画に基づき、子どもたちの読書活動推進のために区内の公立小中学校と連携して様々な取組を行っています。授業での調べ学習で使用する本を貸し出す「教職員向け貸出」や、司書が学校図書館を訪問し、図書の廃棄、分類方法、レイアウト変更等、学校図書館の環境整備全般について支援する「学校図書館環境整備相談」、児童・生徒が図書館に来た時に図書館の使い方の案内や職業体験をする「学校向けプログラム」などの学校向けサービスを実施しています。
- 鶴見区では、外国籍、外国につながる児童生徒が増加しており、従来の日本語の蔵書だけでなく、母語で書かれた本へのニーズに応えることが必要です。鶴見図書館では、中国語、韓国・朝鮮語、英語、スペイン語、ポルトガル語等の各言語の資料収集に力を入れており、外国語資料のみの所蔵冊数は、地域図書館 17 館のうち、2 番目に多くなっています。外国語資料とともに、日本語で書かれた、多文化共生・多文化理解につながるような資料も充実させていきます。



データ出所:横浜市の図書館(横浜国立図書館年報)

- 横浜国立図書館では、図書館情報システムの更新や電子書籍の提供コンテンツの充実、横浜国立図書館デジタルアーカイブ「都市横浜の記憶」での図書や地図、浮世絵、絵葉書等のヨコハマ資料の公開などにより、ICTを活用した「いつでもどこでも情報にアクセスできる環境」の整備を進めています。鶴見図書館でも、まちの文化や記憶等の情報や市民・団体・企業等が持つ多様な知識・情報を集め、ICT を活用しながら「誰でも」連携・協働してまちの魅力の活用・発信や、課題解決に向けたアイデア交換ができる拠点となり、交流と賑わいを生み出すことを目指します。
- 「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律(読書バリアフリー法)」を受けて、拡大読書器やリーディングトラッカー等障害の種類及び程度に応じた「読みやすさ」への実現に向けた鶴見図書館の読書環境を整えます。同時に、あらゆる人が知識・情報にアクセスできるよう、読む・知る・体験することのバリアを取り除くために、「点字つきさわる絵本」や「布の絵本」、「わかりやすい本(LLブック)」、「大きな文字の本」、「オーディオブック」、「様々な言語の本」などの「バリアフリー図書」も充実させていきます。

読書活動の推進

これまでの図書館は、本の貸出しと情報を届けるサービスを中心に実施してきました。これからの図書館では、従来のサービスに加え、体験と実践、交流の機会を充実させていきます。読書活動の推進を通して区内の様々な団体等と連携していくことで、市民の多様な学びや活動をつなぎ、新たな交流・対話・活動を生むプラットフォームとなります。

- 図書館は、膨大な知識や情報への入口であり案内役です。司書はレファレンスサービスとして、様々な情報を市民の皆様につなぎ案内するとともに、地域の知・文化のコーディネーターとして人とまちと図書館をつなぎます。また、多様な主体との協働・共創により、数多くのパートナーシップを構築します。
- 鶴見図書館は、平成 30 年度「子供の読書活動優秀実践図書館」に選ばれて文部科学大臣表彰を受賞するなど、子どもの読書活動を推進しています。また、市民の協力を得て、横浜市立図書館として初めて平成 11 年に乳幼児健診でわらべうたと絵本による子育て支援を開始するとともに、地域図書館 17 館の中で 2 番目に読み聞かせボランティアグループへの貸出が多いなど、ボランティアの活動支援に力を入れています。
- 区役所・学校や区内の読書活動推進団体と連携しながら、「鶴見区読書活動推進目標」に基づき、多文化共生の視点を取り入れ、読書活動推進の取組を拡充していきます。

第二次鶴見区読書活動推進目標

目標1:乳幼児から高齢者まで、幅広い世代を対象にした取組を進めるとともに、鶴見区らしい多文化共生の視点を取り入れ、すべての区民が読書に親しむことのできる環境づくりを進めます。

目標2:鶴見区内には、読書活動を担う施設や読書ボランティアが多数存在しており、それぞれの活動について、相互の情報交換と事業連携を進め、地域全体で豊かな読書活動の場を醸成します。

カ) つるみ区民活動センター

つるみ区民活動センターの現状

- つるみ区民活動センターは、平成 19 年の設置以降、地域施設や地域の活動団体等との連携、活動団体同士の連携促進等を通して、活動の支援、地域活動への参加のきっかけづくりや、新たな担い手の発掘・育成を行い、地域の課題解決や魅力ある地域づくりに取り組んでいます。

つるみ区民活動センターの主な業務

- 地域活動団体への活動場所の提供(登録団体 90 団体(令和 5 年 11 月時点))
- 生涯学習ボランティアの人材バンク「鶴見人ネット」運営(登録者 108 件(令和 5 年 11 月時点))
- 市民活動、生涯学習に関する相談対応
- 地域活動、生涯学習に興味を促す講座・イベントの開催、情報誌の発行
- 他施設との連携、登録団体の交流会の開催等、地域活動主体のネットワークづくり

直面する課題と対応の方向性

- つるみ区民活動センターを利用する団体は高齢層が多いため、複合化を契機に、今後はより幅広い年代の方々が訪れる施設とし、様々な区民が地域活動に参画するきっかけづくりや、新たな交流・ネットワークが生まれる「場づくり」を目指します。
- つるみ区民活動センターを利用する団体は、長年活動している団体に固定化されつつあることから、今後は地域の課題解決に向けた新たな担い手育成にも取り組み、地域支援を強化します。

b. 各施設の概要

	豊岡小学校(西側敷地)	豊岡小学校(東側敷地)
所在地	横浜市鶴見区豊岡町 27 番地1	同左
土地面積	約 9,720 m ²	約 560 m ²
所有	市保有地	同左
建物面積	建築面積:約 2,000 m ² 延床面積:約 6,300 m ²	建築面積:約 300 m ² 延床面積:約 980 m ² (放課後キッズクラブ 100 m ² 、日本語教室100 m ²)
構造・階数	RC 造・地上3階、地下なし	RC 造・地上3階、地下なし
用途	小学校	放課後キッズクラブ 日本語教室豊岡教室
運営主体	本市の直営	法人による運営(本市からの運営補助あり) 本市の直営

	鶴見図書館	鶴見保育園
所在地	横浜市鶴見区鶴見中央二丁目 10 番7号(保育所 1 階、図書館2・3階、地下)	
土地面積	約 1,580 m ²	
所有	借地	
建物面積	建築面積:約 820 m ² 延床面積:約 2,250 m ² 図書館専有面積:約 1,510 m ² 保育所専有面積:約 620 m ²	
構造・階数	RC 造・地上3階、地下1階	
用途	図書館・保育所(複合施設)	
運営主体	本市の直営	本市の直営
開館時間	平日の火曜日～金曜日:午前 9 時 30 分から午後7時 土曜日・日曜日・月曜日・祝休日:午前 9 時 30 分から午後5時	月曜日～金曜日:午前7時から午後7時 土曜日:午前7時 30 分から午後6時 30 分
利用者	主に区民(貸出は横浜市に在勤・在学・在住の方等)、ボランティア	主に入所児童、保護者、その他子育て支援事業利用者

	つるみ区民活動センター
所在地	横浜市鶴見区鶴見中央三丁目 20 番1号 鶴見区役所2階
建物面積	専有面積:約 170 m ²
所有	市保有地
用途	区民活動センター
運営主体	本市の直営
開館時間	月曜日～土曜日:午前8時 45 分から午後5時 第3水曜:午前8時 45 分から午後9時(第 3 水曜が祝日の場合は、午後 5 時まで)
利用者	区内で生涯学習・社会教育活動を行う団体・個人

各施設の所管課

○豊岡小学校

教育委員会事務局施設部教育施設課

○豊岡小学校放課後キッズクラブ

こども青少年局青少年部放課後児童育成課

○日本語教室豊岡教室

教育委員会事務局学校教育企画部小中学校企画課

○鶴見保育園

こども青少年局保育・教育部保育・教育支援課

○鶴見図書館

教育委員会事務局中央図書館企画運営課

○つるみ区民活動センター

市民局地域支援部市民協働推進課

(仮称)豊岡町複合施設再整備事業 基本構想(素案)

令和5年 12 月

横浜市役所
財政局ファシリティマネジメント推進室ファシリティマネジメント推進課
〒231-0005 横浜市中区本町 6 丁目 50 番地の 10
電話:045-671-3803 FAX:045-662-5369
メールアドレス:ky-toyooka@city.yokohama.jp
